

平成29年6月22日

第1回 学校評議員会 議事録

岐阜市立岐阜商業高等学校
司会 教頭 記録 瀬瀬

- 1 会議の名称 学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成

委員	安藤 久男	鏡島自治会連合会会長
	竹本 康史	岐阜聖徳学園大学教授
	山内 義孝	(株)サムソンフィクセル社長
	大野 美鈴	元PTA副会長
学校関係者	山田 宏明	PTA会長
学校側	大矢 晋	校長
	上田 義広	事務長
	浅井 芳仁	教頭
	瀬瀬 良二	教務主任
	那須 貴	生徒指導主事
	杉山 明宏	進路指導主事
	浅井 智世	特別活動部長
	今井 哲	商業教育部長
- 3 会議の目的 地域社会との連携を深め、開かれた特色ある学校運営を推進する。
- 4 会議の開催 平成29年6月22日(木) 13:30~14:40
本校 校長室
- 5 会議の概要
 - (1) 挨拶(学校長)

普段私たちは学校に勤務し授業や様々な取り組みを行っていますが、私たちが気づかないところを外部から見ていただき、業務を改善し学校を活性化させることが学校評議員会の目的です。どうか本日の見学や説明を聞かれて忌憚のないご意見をいただきたいと思います。
 - (2) 学校評議員の委嘱
学校長から4名の学校評議員の委嘱を行う。
 - (3) 日程説明(教頭)
 - (4) 諸連絡
来年度から開設する「学校運営協議会」についての説明(事務長)
 - (5) 授業の見学
第5限の普通教室で行われている授業をフリー見学。
 - (6) 学校説明(分掌長)
教頭より学校の概要説明の後、教務部、生徒指導部、進路指導部、特別活動部、商

業教育部から昨年度の実績や本年度の取組の重点及びこれまでの成果について学校要覧や学校案内を使用して報告した。

(7) 評議委員からの意見

意見1 授業の様子はとても充実していた。また、教室の掲示板にはクラス目標や進路に関する文書が綺麗に貼られており、良い印象を受けた。以前から感じていたが、机・椅子のサイズや教室の大きさが生徒の体格や人数に合っていないのではないかと。

意見2 全体的にあいさつが上手である。特に男子の印象が良い。男子が90%で女子が50%と言ったところだろうか。今後女子のあいさつについて改善が望まれる。

意見3 毎年、地域の行事に積極的に参加していただき有り難く思っている。

意見4 大学ではSNSの問題が深刻である。不適切な情報発信が思わぬ炎上につながり、学校のブランドを傷つけることがある。情報モラルを含めしっかりとした教育をしないといけないと感じている。

意見5 地域からのクレームの未然防止策として大学では教職員が地域の人とのコミュニケーションを積極的に取り関係づくりに努めている。本校では以前から地域に積極的に溶け込んだ活動をしているところは素晴らしい。

意見6 授業を参観して教室が狭いのではないかと感じた。先生方は十分に巡回して指導ができるのか。

意見7 授業中の先生方の声が大きく自信を持って授業をしていた。緊張感が伝わってきた。

意見8 美容業界では折角就職しても2～3か月で離職する者も多い。仕事をアルバイト感覚で選んでいる印象がある。学校教育の中でしっかりとした職業観を教えていく必要がある。また、離職の原因の一つにコミュニケーション能力の不足があるが本校では伝統的に部活動で培われていると感じている。

意見9 職場での経験から言われないとできない若者が多い。また、個人の気づきを他の者に注意しお互いに成長するという場面も感じない。

また、家庭でのしつけの問題もあるだろうが、あらゆる場面でのコミュニケーション能力の不足を感じる。各家庭内でのコミュニケーションの糸口を与えるためにも、学校行事等の情報をメールで発信するとよいのではないかと。

意見10 本校の生徒のコミュニケーション能力や人間力、人間関係能力は部活動などで鍛えられ比較的高いものと思う。この点を普通科卒業生との差別化できる能力として売り出してよい。

意見11 社会ではプレゼンテーション能力が必要である。効果的な資料の作り方ができるなどを強みとするためにも、タブレット等を導入して授業に取り入れることが必要だ。

意見12 会社の中の働き方は改善に次ぐ改善で常に変化している。そのために生涯学び続けなければならない、そのため学力は高いのにこしたことはない。しかし、それ以上に個人の規範意識や家庭のしつけによって身に付いたことは企業のコンプライアンス上とても大切である。その意味で本校は学習と部活動の両立に努めさせ良い教育をしている。

(8) 会議のまとめ

いただいた貴重な意見をこれからの学校運営に取り入れ、本校の魅力ある学校づくりに生かしていきます。